

## 行事を通してたくましくなる子どもたち

校長 田中 準三

いよいよ6月に入りました。6月といえば頭に浮かぶのが「梅雨（つゆ）」です。やがてその季節がやってきますが、毎年のこととはいえ、不快指数の高まるこの時期はなんとなく気が滅入ります。子どもが体の変調をよく訴えるのもこんな時期です。各ご家庭でのお子様の体調管理にはくれぐれもご留意ください。

「ご来光登山はきつかったし、日の出がよく見えなくて残念だったけど心に残っています。」

これは先日実施した5年生の自然学校の解散式で代表児童が述べた言葉の1つです。私も前半の3日間に同行しましたが、ご来光登山は私が滞在している時のプログラムでした。当日は午前3時前に起床し、真っ暗な道（その多くは急な山道です）を時間をかけて鉢伏山の山頂めざして登りました。大人の私でもかなり疲れましたが、ましてや子どもにとってはさらに大変だったと思います。しかし、子どもたちにとっては大変だったからこそ、それをやり遂げた充実感や満足感が心を満たしていたものと思います。自然学校ではそのほかにもたくさんさんのプログラムを用意しましたが、その1つ1つが貴重な体験となりました。子どもたちにとって親元から5日間も離れ、同学年の友だちとともに暮らすことはこれまでになかったことです。その中で助け合い、励まし合いながら、もちろん些細なもめごとや諍いはありましたがそれを乗り越えてお互いの「絆」を深めたことが、これからの学校生活を送る上で大きな糧となりました。

学校行事は5年生の自然学校や6年生の修学旅行、冬季野外活動といった泊を伴うものをはじめ、運動会や音楽会といった全校行事、さらには様々の学年行事など多岐に亘りますが、すべてに共通するねらいは集団生活の営みの中心に位置する「力をあわせること」「思いやりの気持ちをもつこと」の大切さをひとり一人の児童に根付かせることにあります。行事を通してたくましさを身につけていく子どもたち、わたしたちはこれからもその子どもたちを支援続けます。

※ 裏面に自然学校を終えた5年生の感想等を掲載しておりますので合わせてご覧ください。